慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究第三十一巻 (昭和三十三年自一號至十二號) 總目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1958
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.31, No.12 (1958. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19581215-0093

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法學研究　第三十一卷（昭和三十三年　自一號至十二號）總目次

論說

	號數	頁	通頁	執筆者
兄弟姉妹の代襲相續について——最近の福岡高裁判決をめぐり——	一	一	一	田中實
會社の本店所在地の意義	一	二〇	二〇	米津昭子
ラテン・アメリカにおける革命について——その發生要件と基本的特質——	一	三六	三六	賀川俊彥
日本人のマス・コミュニケーション行動——受け手の重複について——	二、三合併	一	八九	生田正輝 加納恒男
フランス法における爭議權の構造	二、三合併	一七	一〇五	阿久澤龜夫
全體主義的獨裁の一般的特徵について	二、三合併	五八	一四六	奈良和重
田中內閣の對華外交（一・二完）	四 九	一 一九	二二三 六七七	中村菊男
非訟事件の定型分類	四	一四	二三六	石川明
長岡藩の寄場と松山（高梁）藩の徒刑所——西洋近代的自由刑の移入を問題として——	五	一	三一一	手塚豐
傳聞法則における證據能力と證明力	五	一九	三二九	青柳文雄
ラジオに對するテレビジョンの影響	六	一	四〇五	生田正輝

アメリカ社會の變容（一・二完）……（六／七）
——特にニュー・ディールを中心として——　太田俊太郎　（四三〇／五二六）

江西ソヴェト期における抗日反帝統一戰線の諸問題……七　石川忠雄　一　（二六／三八）

英國國家賠償の法理（二・完）……七　德田致之　一九　五〇七

ドイツ史學と國家の問題……八　金子芳雄　一　五八七
——F・マイネッケ、G・リッター等をめぐる試論——　多田眞鋤

會社の負擔に歸すべき設立費用……八　清水新　三一　六一七

ルーズヴェルトの極東政策批判……九　內山正熊　一　六五九

社會構造の變動と權力移動の形態……十　中村菊男　一　七七五
——三重縣鳥羽市小濱町における實態調査（一）——　堀江湛

直接行動論の擡頭……十　中村勝範　三五　八〇九
——幸德秋水の理論をめぐつて——

請求補說……十一　伊東乾　一　八八七
——訴訟行爲効力理論の適用例に及ぶ——

政治意識と投票行爲（投票決定の諸要因）……十一　中村菊男　一五　九〇一
——三重縣鳥羽市小濱町における實態調査（二）——　堀江湛

京漢鐵道龍業と陳獨秀……十二　石川忠雄　一　一〇六一

過去の法律關係と確認訴訟……十二　石川明　二〇　一〇八〇

判例研究

〔民法〕一　實子として出生屆の出された表見相續人が善意の第三者となした抵當權設定契約の効力……九　內池慶四郎　五二　七一〇

〔商　法〕一　株主總會決議の存否……九　清水新治
〔勞働法〕一　出炭阻止ピケチングと威力業務妨害……九　峯村光郎
〔商　法〕二　假差押することを主たる目的としてなした隱れたる取立委任裏書と訴訟信託、手形債權の裏書讓渡と保證債權の附從性……十　高鳥正夫
〔商　法〕三　先行裏書の欠缺とその補充……十　松岡和生
〔民　法〕二　配偶者の精神病を原因とする離婚請求の方法……十一　田中實
〔勞働法〕二　第二組合員に對し暴行を加えた第一組合員の解雇と懲戒解雇權の濫用……十一　川口實
〔行政法〕一　辭令交付なき身分巷と任用期限滿了による退職の効果等……十二　金子芳雄
〔刑　法〕一　森林賊物に關する罪と刑法第二五七條……十二　宮崎澄夫

資　料

第九回犯罪生物學協會會議……一　六三
J・H・ウィグモア博士關係文獻目錄……二、三合併　六三
默阿彌の『散切物』に見えたる明治初年の法制（一・二・三）……四、五、六　卷末より四、五七、四二、六〇、卷末より三　二一九、三七九、四六四、四〇二　宮澤浩一、平良健、向井正彦、岩田正雄、石川忠雄
オーエン・ラティモア教授著作目錄……五　四五　四四九　田中實、池田慶四郎
受託者の權利……六　六二　五五〇　手塚豐
——ノルトによる管理權の構成——
明治初年の東京府刑法……七
附・明治三年東京府行刑人員表

ドイツ語圏の各國大學における刑事法學關係研究者總覽……八　宮澤浩一　六五六
新庄藩の徒刑……九　手塚豊　七三七
フランス刑事訴訟法改正草案（一・二完）……九・十　青柳文雄　七四三・八四八
最近日本における現代中國關係主要雜誌論文目錄（一・二完）……十一・十二　宮澤浩一　九六五・一一九

紹介と批評

清宮四郎著『憲法』（I）……一　石川忠雄　七〇
家永三郎・庄司吉之助共編『自由民權思想』……一　田口精一　七六
今泉孝太郎著『農民法研究』……二、三合併　向井健　七六
——農地法の新しい解釋——　宮崎俊行　七六
H・レフェレンツ著『兒童の犯罪性』……二、三合併　宮澤浩一　七八
——刑事學的・少年精神病學的研究——
E・V・シュナイダー著『產業社會學』……二、三合併　十時嚴周　八六
中村菊男著『明治的人間像』……二、三合併　中村勝範　九二
——星亨と近代日本政治——
J・ヴィンケルマン編『M・ウェーバー・國家社會學』……四　多田眞鋤　七二
ジョルジュ・スピロオプロ著『團結權』……四　阿久澤龜夫　七六
J・ハザード著『ソ連の政治制度』……五　中澤精次郎　五九
H・B・メイヨ著『デモクラシーとマルクス主義』……五　奈良和重　六一
ライマン著『第一次勞働黨內閣、一九二四年』……六　伊藤政寬　七〇
森下菅根編『植木枝盛遺稿無天雜錄』……六　向井健　七三

ガロ・プラサ著『ラテン・アメリカにおけるデモクラシーの諸問題』……七　八二　五七〇　賀川俊彦
E・ベティヒャー著『集團的勞働法における武器の平等と平等の處遇』……八　四五　六三一　川口實
A・レイン・プール著『十二・三世紀の社會の義務』……八　四七　六三三　森岡敬一郎
峯村光郎譯『ザゥワァ・法哲學序說』……九　一〇二　七六〇　伊東乾
清水新著『會社法論』……九　一〇五　七六三　阪埜光男
中村菊男著『昭和政治史』……十　九二　八六六　石川忠雄
津田利治著『會社法の大意』(上)……十　九八　八七二　清水新
ジャン・デリュッペ著『賃借人の權利の法的性質、並びに物權と債權の區別』……十一　一一一　九九七　林脇トシ子
ジョン・W・チャップマン著『ルソーは全體主義者か自由主義者か』……十一　一一五　一〇〇一　奈良和重
青山道夫著『續近代家族法の研究』……十二　七八　一一三八　田中實
ハンス＝ハインリッヒ・イェシェック著『現代の人間像と刑法改正』……十二　八一　一一四一　宮澤浩一

記事

今泉孝太郎教授・手塚豊教授學位請求論文審査要旨……五　六八　三七八
創立百年記念特集記事
慶應義塾大學法學部略史……十一　一二六　一〇一二
創立百年記念論文集の發刊について……十一　一三〇　一〇一六
法學部專任者一覽……十一　一三一　一〇一七
『法學研究』既刊總目次一覽……十一　卷末　一〇二三

受贈書主要文献目録……二、三合併一
一〇八七六五四三三一
四〇七六三七八八〇八八
七七九七八九一四二六〇
八二〇〇五九七七八九八
七一五九二一七四〇八〇
十十
二一十九八七六五四一